県内のキャンプ・大会・イベント等の経済波及効果

～経済波及効果は直接効果の1.6倍が目安～

プロ野球春期キャンプをはじめ、県内各地で開催されている様々なキャンプ・大会・イベント等の経済波及効果が算出されている。2010年に開催された「美ら島総体」の経済波及効果は約145億円（おきぎん経済研究所）と算出され、参加者規模は延べ約49万人（大会実行委員会事務局公表数値）にのぼる。また、2011年のプロ野球春期キャンプの経済波及効果（予想値）は約101億円（りゅうぎん総研）、全体の観客数は約35万人（予想値）との推計結果が公表されている。

図表１　県内のキャンプ・大会・イベント等の参加者規模と経済波及効果

年	キャンプ・大会・イベント等	参加者規模（人）	直接効果（支出額）（百万円）	経済波及効果（百万円）	乗数効果（倍）
2007-08	bjリーグ（2007-08シーズン）	42,500	546	784	1.4
2008-09	bjリーグ（2008-09シーズン）	67,100	1,107	1,625	1.5
2009	第25回NAHAマラソン	33,900	1,273	1,683	1.3
2007	宮古アイランドロックフェスティバル2007	5,500	197	309	1.6
2008	宮古アイランドロックフェスティバル2008	4,000	168	259	1.5
2010	宮古アイランドロックフェスティバル2010	4,330	184	303	1.6
2003	2003年プロ野球春期キャンプ	11,500	2,140	3,210	1.5
2004	2004年プロ野球春期キャンプ	24,500	2,904	4,340	1.5
2005	2005年プロ野球春期キャンプ	139,400	3,129	4,790	1.5
2006	2006年プロ野球春期キャンプ	171,000	3,330	5,041	1.5
2007	2007年プロ野球春期キャンプ	227,400	3,559	5,337	1.5
2008	2008年プロ野球春期キャンプ	265,000	4,101	6,274	1.5
2010	2009年プロ野球春期キャンプ	242,000	3,740	5,706	1.5
2010	2010年プロ野球春期キャンプ	171,000	3,426	5,494	1.6
2011	2011年プロ野球春期キャンプ（予想）	350,000	6,300	10,100	1.6
2005	久米島東北楽天ゴールデンイーグルス春期キャンプ	6,500	376	630	1.7
2008	石垣島千葉ロッテマリーンズ春季キャンプ	31,950	832	1,343	1.6
2007	2007ITU石垣島トライアスロン	9,800	188	316	1.7
2008	2008ITU石垣島トライアスロン	23,635	340	581	1.7
2009	2009ITU石垣島トライアスロン	7,400	360	619	1.7
2006	第22回全日本トライアスロン宮古島大会	6,400	210	347	1.7
2007	第23回全日本トライアスロン宮古島大会	6,900	199	330	1.7
2008	第24回全日本トライアスロン宮古島大会	6,900	187	313	1.7
2009	第25回全日本トライアスロン宮古島大会	7,200	209	348	1.7
2010	第26回全日本トライアスロン宮古島大会	7,100	199	336	1.7
2010	美ら島沖縄総体	490,000	8,433	14,501	1.7

（資料）りゅうぎん総研、おきぎん経済研究所
（注１）参加者規模は、県内外の観客数、ボランティア等、関係者も含めた人数。
（注２）「美ら島沖縄総体」については、施設整備費など準備期間の支出を除く大会開催による効果のみ。

●経済波及効果は直接効果の約1.6倍

これまでに算出されている県内で開催された、主なキャンプ・大会・イベント等の経済波及効果について整理を行った。今回、ピックアップしたのは、bjリーグ、第25回NAHAマラソン、宮古アイランドロックフェスティバル、プロ野球春期キャンプ、ITU石垣島トライアスロン、全日本トライアスロン宮古島大会、美ら島総体など、予想を含めた26件の推計結果（図表1）である。

全26件の経済波及効果を単純に合計すると、総計で約749億円、参加者規模は約236万人にのぼり、直接効果（支出額）のみでも約476億円となっている。直接効果（支出額）に対する乗数効果（波及効果）は約1.6倍である。

今回、ピックアップした26件のうち最も乗数効果（波及効果）が低いケースは、「第25回NAHAマラソン」の約1.3倍、最も高いのは「美ら島総体」やトライアスロンなどの約1.7倍となっている。また、参加者1人あたりに換算すると、約3万円程度の波及効果となっている。

●参加者規模と効果の比較

今回ピックアップした、26件の算出結果をもとに、「参加者規模と経済波及効果」、「参加者規模と直接効果（支出額）」について単回帰分析により比較を行った。ただし、地元客と県外客（島外客）の比率については考慮しない。結果は、図表2および図表3の通りであり、ほぼ直線で表現することができる。

26件の乗数効果（波及効果）の平均値は約1.6倍であるが、単回帰分析の結果からも、県内におけるキャンプ・大会・イベント等の開催は、直接効果（支出額）に対して1.6倍程度の経済波及効果を生み出すことが推測される。

参加者規模と直接効果（支出額）についても、ほぼ同様に直線で表現することができ、参加者の規模に応じて消費行動により直接効果が押し上げられる。1人あたりに換算すると約2万円程度の支出が見込まれることになる。

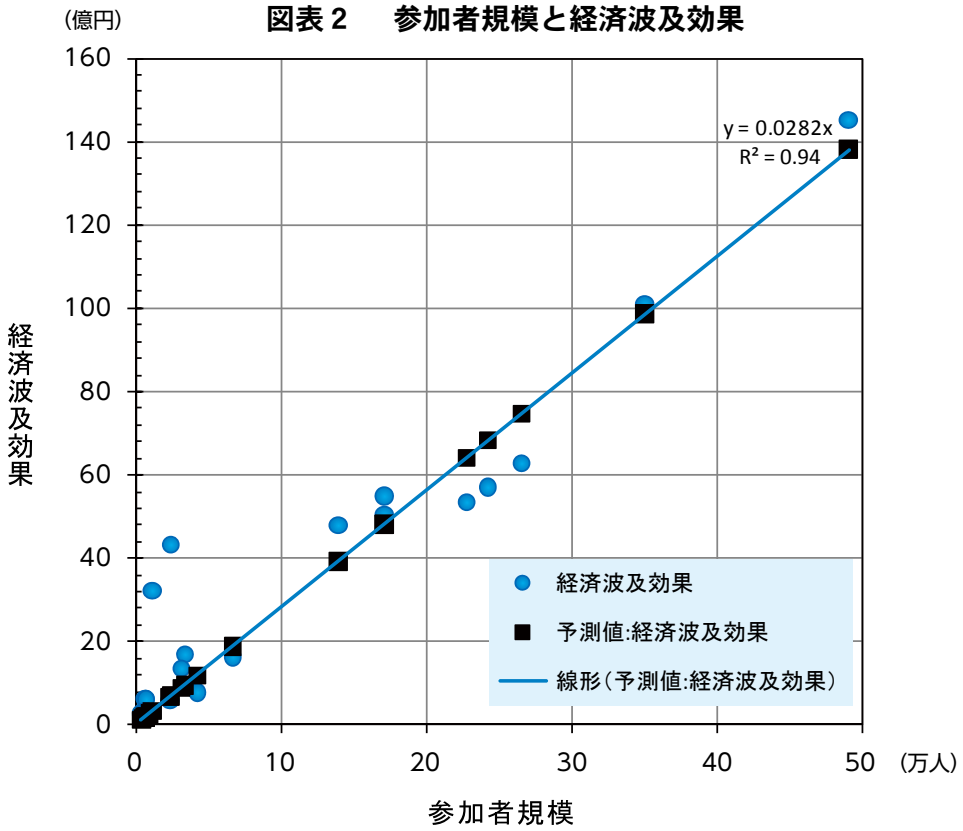
これらの結果をもとにすると、仮に参加者規模を11～12万人と想定したイベント等を開催すると直接効果（支出額）が、参加者の消費額も含めて約20億円、その1.6倍程度である約32億円が、最終的な経済波及効果として見込まれる。

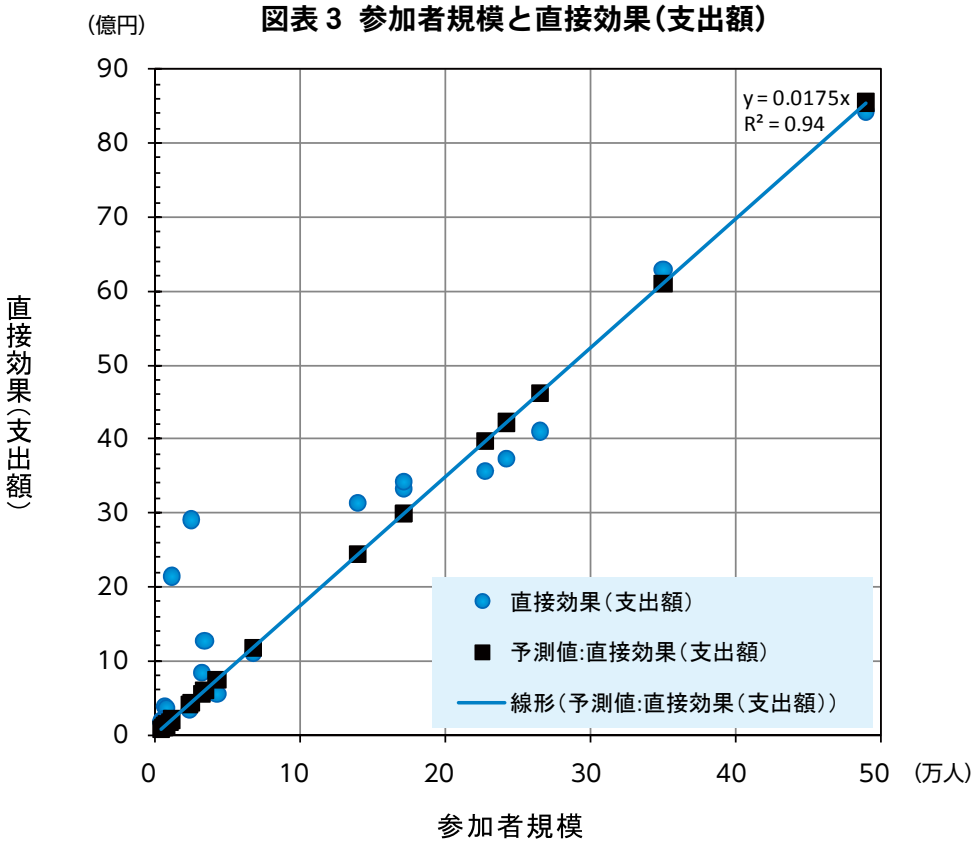
ただし、地元客および県外客（島外客）の消費額は、宿泊費等を含めて大きな差があることは明かであり、キャンプ・大会・イベントの各々の状況に応じて地元客および県外客（島外客）等の割合も異なる。

また、キャンプ・大会・イベント等の開催に伴う参加者規模および直接効果（支出額）等のデータの取得についても一定ではなく、予想等の推計も含めてあくまでもその時点で得られたものである。

そのため、今回の結果は、あくまでも県内のキャンプ・大会・イベント等の開催の効果に関するひとつの目安とされたい。

図表２　参加者規模と経済波及効果





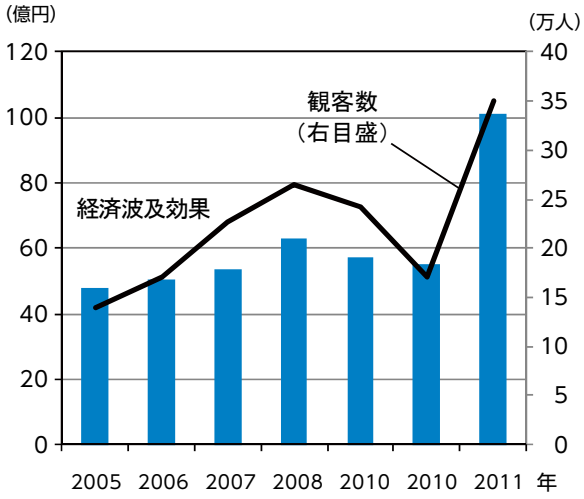
●今後、期待されること

今回の結果はあくまでも目安であるが、これまでの間、その効果が数量的に算出されていない県内のキャンプ・大会・イベント等、または新たに企画するものに対しても、その効果がどの程度あったか、または、見込まれるかを簡易に判断する一つの材料となるであろう。

また、今回は、地元客と県外客の比率を考慮していないが、当然のことながら県外（島外）からの誘客割合を高めることで、さらにその効果は高まるものと考えられる。

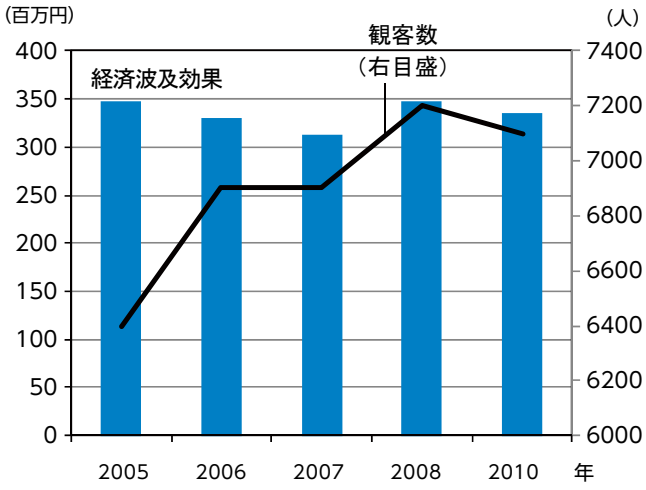
今後、県内で開催される様々なキャンプ・大会・イベント等の基礎データの整理や経済波及効果の調査分析が継続（例:図表4、図表5）して行われることで、類似の事例ごとに分けて効果を予測することや精度を高めることが期待されるとともに、開催に伴う予算の根拠ともなりうると考えられる。

図表４ プロ野球春期キャンプの経済波及効果



（資料）りゅうぎん総研

図表５ 全日本トライアスロン宮古島大会の経済波及効果



補　足

今回、ピックアップした26件の経済波及効果の算出については、産業連関分析によるものであり、おおむね下記の式により算出されている。

算出式の例（参考）

$$X = [I - (I - \bar{M})A]^{-1}(I - \bar{M})F$$

X ：各産業部門の財・サービスの生産額
I ：単位行列
M：県内需要に対する移輸入係数（対角行列）
A ：投入係数（行列）
[　　]$^{-1}$：逆行列
F ：最終需要額（直接支出額）

使用されている沖縄県産業連関表については、2000年および2005年があり、それぞれの時点で最新のデータが用いられている。また、部門分類および統合については、それぞれのケースに応じて異なる場合がある。

本稿における語句の説明

◆ 直接効果（支出額）

ある産業の需要が新たに発生（新規需要）することによって、県内産業部門に直接に生産を誘発する効果のこと。

本稿においては、開催にかかる費用や参加者や観客等の消費額のことを指している。

◆ 経済波及効果

ある商品に需要が発生したとき、経済におけるさまざまな取引の連鎖によって他の商品の需要が生み出され、それを製造するさまざまな産業の生産が誘発されること。

本稿においては、生産誘発額を経済波及効果として取り扱っている。

（海邦総研経営企画部研究員／新里治史）